

令和6年度 第36回 北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 令和7年3月13日(火) 15時00分～17時00分

2. 場 所 ボルファートとやま

3. 出席者 辻本委員長、池本委員、関島委員、平林委員、中田委員、柳原委員

4. 議 事

(1) 大町ダム定期報告書(案)について

(2) 北陸地方ダム年次報告書(案)について

(1) 大町ダム定期報告書（案）について

【総括】

令和元年度～令和5年度の調査結果の分析・評価をとりまとめた大町ダムの定期報告（案）について、審議された。

その結果、治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況に現状で問題ないことから、大町ダムについては適切に管理運用されていることが確認され、定期報告書（案）については了承された。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は下記のとおりである。

1) 防災操作

- ・なし

2) 利水

- ・なし

3) 堆砂

- ・なし

4) 水質

- ・上流の高瀬ダム・七倉ダムも含めた評価は非常にわかりやすいため今後も継続してほしい。
- ・濁度の縦断的、経年的変化データを掲載してほしい。

5) 生物

- ・種数だけではなく、種構成や個体数等の情報も、影響を評価するためには必要である。
- ・動物プランクトンについて、マニュアルどおりの調査方法が採用されているか再確認してほしい。
- ・鳥類については、湖面凍結や、大量飛来の有無等によっても調査結果に大きな変化が生じることから、バックデータとして整理した方がよい。
- ・調査エリア、マニュアル変更などバックグラウンドが異なるデータが含まれていないか精査のうえ、状況に応じて補足説明が必要。
- ・外来種については、ダム湖内での拡がりや下流への影響を評価するとともに、モニタリングに加え、駆除対策についてもしっかり議論する必要がある。
- ・フォローアップ委員会から河川水辺の国勢調査へのフィードバックも必要である。

6) 水源地域動態

- ・大町ダムのPRをどの層に向けて実施するか明確にすることにより、効果的な情報発信が可能になると思われる。また、周辺地域との連携も重要である。

(2) 北陸地方ダム年次報告書（案）について

【総括】

大石ダム、手取川ダム、大町ダム、大川ダム、三国川ダム、宇奈月ダム、横川ダムの7ダムについて、令和5年度の管理・運用状況を取りまとめた北陸地方ダム年次報告書（案）について、報告された。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は下記のとおりである。

1) 防災操作

- ・なし

2) 利水

- ・なし

3) 堆砂

- ・他のダムと比べて年間の堆積量が大きいダムについて、評価が必要。

4) 水質

- ・他のダムの水質と比較した結果については、各ダムの管理や定期報告作成にも活かしてほしい。放流濁度等の影響が見られるダムはコメントが必要。

5) 生物

- ・湖畔性草本類が減少しているダムがある。外来種対策の効果についても把握する必要がある。
- ・オオキンケイギクは種の生存能力が長く、抜根しても地中に種が残っている場合、発芽する。根絶するには5～6年程度継続的な抜根が必要。

6) 水源地域動態

- ・SNS や防災番組などとも連携し、ダムの機能や効果の広報を様々な方面にアプローチしてほしい。

7) その他

- ・フォローアップはアセスの事後評価としても位置づけられているのならば、影響を評価していく必要がある。何を評価していくのか、フォローアップで再確認できるようにしてほしい。フォローアップのあり方について、改めて整理してほしい。

以上